

中東のヨルダンに来て、3か月が経ちました。

私は現在、保健要員として国際赤十字・赤新月社連盟ヨルダン事務所で中東地域紛争犠牲者支援事業を担当しています。

終わりの見えないシリア内戦の影響で、ヨルダンには66万人とも言われるシリア難民が暮らしています。そのうち80%近くがキャンプ外に住んでおり、この事業は都市部の中でも、難民の数が多く6県を対象に保健衛生の普及に取り組んでいます。またシリア難民のみならず、ヨルダンの方たちも対象とし、社会としての一体化にも配慮しています。

この事業は2014年に開始されましたが、保健衛生の中でも深刻な問題となっているのが、がん、糖尿病といった非感染性疾患（Non Communicable Diseases: NCDs）です。シリア難民への医療補助は2014年12月をもって打ち切りとなり、無料診療を提供しているのは、NGOなどが運営するクリニックや不定期なモバイルクリニックに限られています。特にNCDsは、罹患してからの治療費が高額になるため、予防啓発は重要です。

そこで、ヨルダン赤新月社のボランティアがトレーニングを通じてNCDsの知識を身につけ、家庭訪問や中心グループとのディスカッションなどで、コミュニティの方々へ啓発していきます。

また、ヨルダンは喫煙率が高く、慢性呼吸器疾患予防のための禁煙指導も欠かせません。ただ残念ながら、ボランティアはもちろん、トレーニングを実施するヨルダン赤新月社スタッフも喫煙者が多く、せめてトレーニング中は禁煙するように説得を試みっていますが、全くうまくいきません…。NCDsのほかにも、栄養や健康についての情報提供、産前産後・新生児のケア、定期予防接種、救急法、暴力防止に関するトレーニングなども実施しています。様々なトピックを網羅することで、ボランティアの知識が広くなり、ヨルダンの皆さんが必要とする情報を提供できることを目指しています。このような予防知識の向上のみならず、カギとなる行動変容（習慣を変える）に向けてのトレーニングも実施しています。

事業の実施機関はヨルダン赤新月社ですが、私の同僚の職員がいくつもの事業を掛け持ちしているため大変忙しく、彼をつかまえるのも、ひと苦勞です。電話をかけても無視されることがほとんどです。着信履歴が残っていても、掛け直してくれません。文字通り、本当に逃げられているのです。彼の部下である事業スタッフは頑張ってくれていますが、彼の許可なしに判断できないことも多く、事業運営のサポートには本当に骨が折れます。

このように、日々事務所では悶々と？イライラと？する毎日ですが、毎月各県支部で行われるボランティアたちとのミーティングに参加し、家庭訪問を含めた視察に加わり、地域の人々から話を聞けることは、私のモチベーションとなっています。勉強になることが

多く、そしてボランティアの皆さんの地道な努力には、頭が下がります。

この事業は、すぐに結果が見えるものではありません。しかし、いつか心も体も健康で自国に帰れるよう、皆さんに寄り添った事業をヨルダン赤新月社が引き続き展開できるよう、そのサポートを行いたいと思います。



シリア難民の女性へ情報提供する  
ヨルダン赤新月社ボランティア



Balqa 支部でのトレーニング終了時